

雪害に備える

雪に伴う警報や注意報が発表されたときは、気象状況に十分注意し、無理な外出はしないようにしましょう。

暴風雪による被害の特徴

1 吹きだまり

- 車の運転が大変危険になり、積雪 20cm程度でも発進できなくなる場合があります。
- 住宅では、FF式暖房機などの給排気口がふさがれると、一酸化炭素中毒を起こす危険性があります。また、玄関が雪にふさがれて扉が開かなくなることがあります。

2 暴風や視界不良による歩行困難

- 強い風でまっすぐに歩くことが困難になります。また、雪で数メートル先も見えなくなり、方向感覚を失って自分の位置がわからなくなります。
- 視界不良により車からは歩行者が見えにくくなるため、歩行が危険になります。

3 暴風による飛散物

- 看板や屋根などが飛んでくる場合があります。

4 停電

- 電線着雪や強風、飛散物により電線が切れるなどして、停電が発生し、照明や暖房が使えないことがあります。
- 天気が回復するまで復旧作業が行えず、停電が長期化することがあります。

家の中で安全に過ごすために

- 気象情報に注意して、暴風雪が予想されているときは外出を避けましょう。
- 停電に備えて、懐中電灯、携帯ラジオ、防寒具、ポータブルストーブや灯油、非常食、飲料水などを準備しておきましょう。
- FF式暖房機などを使用している場合は、給排気口付近が雪でふさがれないよう注意しましょう。



やむ得ず車で外出するときには

天気の急変などにより車が立ち往生することを想定して、防寒着、長靴、手袋、スコップ、けん引ロープなどを車に用意するとともに、十分に燃料があることを確認しましょう。



雪害に遭ったら・停電に備えて

家の中にいるとき

FF式暖房機などの給排気口が吹きだまりでふさがれると一酸化炭素中毒を起こす可能性があります。

- 給排気口がふさがれていないか確認する。
- 出入り口を確保するため、吹きだまりの状況を見て除雪する。

歩行中や屋外で作業中のとき

視界不良(ホワイトアウト)により方向感覚がなくなり、自分の位置が分からなくなることがあります。

- 近くの商店・コンビニエンスストア、人家など建物の中の安全な場所へ避難する。
- 肌の露出を少なくして、体温の低下を防ぐ。
- 歩行中は飛散物に注意。



車を運転しているとき

運転中に暴風雪となり視界が悪くなったときは、そのまま運転を続けるのは大変危険です。

- 道の駅、コンビニエンスストア、人家などで天気の回復を待つ。
- 気象情報や道路情報を確認する。

車が立ち往生したとき

車が立ち往生したときは、後続車から追突されないように注意してください。

- ハザードランプを点滅、停止表示板を置く。
- JAFなどのロードサービス、警察・消防、近くの人家に救助を依頼しましょう。
- 一酸化炭素中毒の危険をなくすにはエンジンを切ることが大切です。防寒着や毛布、新聞紙などで体温の低下を防ぎましょう。暖房などでやむを得ずエンジンをかけるときには、排気管出口を確実に大気へ解放し、追加の降雪や吹きだまりで埋もれないように注意しましょう。

緊急時の連絡先

※短縮ダイヤル

道路の異常を発見したら
道路緊急ダイヤル (#9910)
車の故障・レッカー移動
JAFロードサービス (#8139)



▶ 停電に備えて

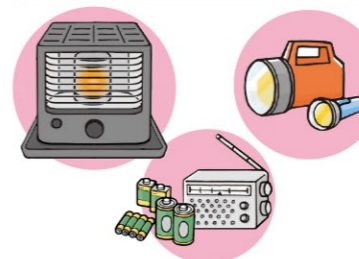
突然電気が消えても落ち着いて行動できるよう事前に準備しておきましょう。

災害による停電に注意



地震や暴風雨、暴風雪などは注意

持ち出し品はわかりやすい場所に



懐中電灯とラジオ、電池式のポータブル石油ストーブなど、置き場所を決める。

大規模停電時は



避難場所へ避難の準備